

発展するアジアの
美しい金融都市

自然と人工物が見事な調和を醸し出す緑豊かな美しい町。東京二十三区の総面積よりやや広めの国土に、華人系、マレー系、そしてインド系など合計約四五〇万人の住民がそれぞれの文化を競い合うように暮らす都市国家。それがシンガポールである。



シンガポール中心部に位置する高層ビル群



シンガポールのシンボル「マーライオン」

シンガポール 補習授業校

●シンガポール●

その美しさをたたえ「ガーデンシティ」とも呼ばれている。

シンガポールは、アジアとヨーロッパや中東、オーストラリアを結ぶ交通の要所であり、古くから海運業が発達し貿易立国として栄えた。それに加え近年では、多国籍企業のアジア太平洋地域拠点として、またアジアの金融センターとして発展し続けている。

現地の教育環境



校舎全景

シンガポールでは国家予算の二割という驚異的な額を教育につぎ込み、徹底した選別教育を行っている。義務教育は六年間。前期四年間は基本的な読み書きと理数系の知識の習得に、後期二年間は中等学校進学に力を入れた授業が開される。

六年生の終わりには全生徒が初等学校卒業試験を受け、おのおのの能力に応じた中等学校へ進学する。中等学校へ進学した生徒は、能力に応じたコース別に学習を継続。その後、「上級」教育認定試験合格者には大



小学部1年 国語



お月見集会
絵本の朗読やペーパーアートを楽しむ

実務レベルの人材を育成することを目的とする教育機関であるポリテクニクへの進学が、「標準」教育認定試験合格者には技能教育研修所への入所が認められる。私立の教育機関としては、シンガポール日本人学校（小学校二校、中学校一校）や早稲田渋谷シンガポール校（高校）をはじめ、アメリカンスクールやカナディアンスクール等、各国のカリキュラムに基づいた教育を行う数多くのインターナショナルスクールがある。

小学部1年の「玉入れ」



たなばた集會

短冊に願いを込めて



小学部高学年の「テニスボール運び」

節分集會 鬼は外、福は内



The Japanese Supplementary School, Singapore

URL <http://www.jss.edu.sg>

児童生徒数 小=223人 中=30人 国際=13人 日本語=13人

子どもたちが

日本のあそびがたくさん
できるよわい!

ぼくは小学校で好きなことは日本の遊びです。よい所はみんなが楽しく遊ぶことができることです。(小3)

毎週土曜日に通学部に通い多くの友達や先生に出会うことができるとても楽しい場所です。(中3)

本校の歴史と教育

本校は一九九二年十月、母親たちによる手づくりの学校として産声を上げ、現在は日本人学校の校舎を借用している。その後九五年には日本国政府より、翌九六年にはシンガポール政府より正式に認可を受け、順調に発展してきた。九六年当時は一〇〇人に満たなかった児童生徒数も、現在では三〇〇人規模へと拡大。特に小学校低学年の子どもを持つ保護者に支持され、毎年、定数をはるかに上回る児童が入学を希望している。すべてを受け入れることができな

いのが悩みの種である。

「児童・生徒や保護者のニーズに応じた日本語および日本文化に関する教育を行うことを通して、国際社会に生きる子どもの成

長を促し支援すること」が本校の使命である。そのため、母語もしくは準母語レベルの日本語力を持つ子どもにも学習指導要領に準じた教育を行う「国語科」と、外国語として日本語を学ぶ「日本語科」の二つを開

設し、それぞれのニーズに応じた教育を受けられることができるようにしている。

子どもの指導にあたる教師はすべて教員免許保持者。授業は日常的な教材研究に加え、十分な事前準備と実施後の評価が行われているため、日本の公立学校に劣らない質を保っている。しかしながら、さまざまな事情により一週あたり三時間の授業時数しか確保できないため、ほかの補習校のように算数(数学)や理科の授業を行うことができないという課題もある。

特筆すべきは、授業とは別にさまざまな行事を提供していること。「子どもの日集



小学部5年 体験学習書道

会「たなばた集會」「お月見集會」「節分集會」などの四季折々の行事を通して日本文化に触れることはもちろん、「書道」や「和太鼓」など、実際に筆やばちを手にする体験型学習、そして、日本の学校文化の一端に触れる「運動会」も好評を博している。

(二〇〇八年一月現在)